■景域別景観形成方針

⑦興除・藤田・灘崎地区

【地区の魅力】

○市南西部児島湖に面し、江戸期から昭和半ばにかけての干拓事業によって形成された農地と農家集落によって構成されており、農業用水が縦横に流れる雄大な田園景観が形成されている。

○広大な農業景観と、その背景となる地区南に連なる常山などの山並み景観は、一つのまとまりある景観であり、また常山は良好な視点場にもなっている。

○笹ヶ瀬川左岸部（浦安地区）や妹尾駅南部、国道 30 号沿道（灘崎地区）などでは計画的な住宅地が形成され、良好な住環境がつくられている。

○地元組織による笹ヶ瀬川河川敷周辺の公園整備、岡山県「児島湖畔環境保全アダプト推進事業」への積極的な参加（清掃美化活動）など、環境美化に関する自主的な取り組みがなされている。

【地区の課題】

○干拓によって形成された農業環境を適切に維持し、雄大な田園景観を保全していくことが必要である。

○笹ヶ瀬川や倉敷川、多くの用水路など市街地を取り囲む水辺空間を活かし、市街地のアメニティを高めることが必要である。

○地区を縦走する国道 30 号は、地区の骨格をなす幹線道路として良好な沿道景観の形成が必要である。

○良好な住宅地景観を適切に維持・保全していくことが必要である。

【景観づくりの目標】

干拓によって形成された広大な農業景観を、大切に継承していくとともに、格子状に張り巡らされた水路、笹ヶ瀬川・倉敷川や児島湖の水辺といった豊かな自然景観を活かしながら、緑・水・農を一体として守り育てる複合的な景観づくりを目指す。

【地区の魅力となる景観資源】

雄大な干拓農地（藤田地区）

広大な農地（灘崎地区）

近代化遺産である常川樋門

緑が豊富に配置された計画的住宅市街地（妹尾駅南部）

市民の憩いの空間である浦安緑道

児島湾干拓においては最大級である丙川三連樋門

【景観づくりの方針】

方　針	具体的な方向
1．湖や河川、水路の水辺空間を活用する	○児島湖や笹ヶ瀬川、倉敷川のアメニティを高める。
	○妹尾川や水路の親水性を高め、市街地のアメニティを向上させる。
2．広大な農業景観を維持・保全する	○まとまった農地を適切に維持し、広大な農業景観を守る。
	○広大な平野部の見晴らしある景観や、山並みへの眺望を守る。
3．干拓地の歴史的景観を保全、活用する	○樋門などの近代化遺産を守り、活かす。
4．常山などの緑地景観を保全する	○市街地の背景となる斜面緑地を守る。
5．幹線道路の沿道景観を修景する	○屋外広告物の形態・意匠をコントロールする。
	○緑豊かな美しい沿道景観を形成する。
6．良好な住宅地景観を形成する	○住宅市街地の良好な景観を守り、創る。
	○散居形態の農家集落の景観保全を行う。
	○緑豊かなゆとりのある住宅地を形成する。
	○周辺の自然・農業環境に配慮した住宅地景観を整える。

図　景観づくりの方針